

Ⅷ 令和 8 年度 調理師科 開講授業科目

【令和 8 年 4 月入学生】

	教育内容	授 業 科 目	開講 時間数	単位数	A	B	C	開講 時期	頁
必	食生活と健康	公衆衛生学Ⅰ	60	2	足立	足立	足立	通年	64
		公衆衛生学Ⅱ	30	1	中村	中村	中村	後期	65
	食品と栄養の特性	栄養学Ⅰ※2	60	2	由井	由井	由井	通年	66
		栄養学Ⅱ	30	1	松田	松田	松田	後期	67
		食品学・食品学実習	60	2	小澤	小澤	小澤	通年	68
	食品の安全と衛生	食品衛生学Ⅰ	60	2	石原	石原	石原	通年	69
		食品衛生学Ⅱ（衛生法規含む）	60	2	田崎	田崎	田崎	通年	70
		食品衛生学実験実習	30	1	平井	平井	平井	前期	71
	調理理論と食文化概論	調理理論Ⅰ（食文化概論含む）	60	2	皆田 他	皆田 他	皆田 他	通年	72
		調理理論Ⅱ（食文化概論含む）	60	2	広田 他	広田 他	広田 他	通年	73
献立作成（四群点数法含む）		30	1	由井	由井	由井	前期	74	
集団調理理論（調理施設設備含む）		30	1	小野	小野	小野	前期	75	
調理実習	日本料理基礎・応用 ※2	90	3	皆田 他	皆田 他	皆田 他	通年	76	
	西洋料理基礎・応用 ※2	90	3	広田 他	広田 他	広田 他	通年	77	
	中国料理基礎・応用 ※2	90	3	土屋 他	土屋 他	土屋 他	通年	78	
	製菓・製パン基礎	30	1	遠藤・川内他	遠藤・川内他	遠藤・川内他	通年	79	
総合調理実習	特殊調理実習 ※2	30	1	小野	小野	小野	通年	80	
	集団給食調理実習	60	2	小野	小野	小野	通年	81	
特別講義	キャリアガイダンス	30	1	土屋・竹内	土屋・竹内	土屋・竹内	前期	82	
	レストランオペレーション	30	1	奥山	奥山	奥山	前期	83	
必修科目計			1,020	34					
選択必修※1	インターンシップ	インターンシップ（校外実習）	60	2	土屋他	土屋他	土屋他	通年	84
	国際コミュニケーション	フードランゲージ（フランス語）	30	1	黒田	黒田	黒田	後期	85
		フードランゲージ（英語）	30	1	三谷・藤谷	三谷・藤谷	三谷・藤谷	前期	86
選択必修科目計			120	4					
選択※3※4	特論	共通特論Ⅰ（栄養と調理技能検定3級）	30	1				後期	
		共通特論Ⅱ（栄養と調理技能検定2級以上）	30	1				後期	
		共通特論Ⅲ（ヨーロッパ研修）	30	1				後期	
		共通特論Ⅳ	30	1				後期	
		共通特論Ⅴ（日本料理研修）	30	1				通年	
		共通特論Ⅵ	30	1				後期	
		共通特論Ⅶ	30	1				通年	
		共通特論Ⅷ	30	1				後期	
		共通特論Ⅸ（技術考査）	30	1				後期	
		共通特論Ⅹ	30	1				後期	
		共通特論Ⅺ	30	1				後期	
		共通特論Ⅻ（北海道十勝研修）	30	1				通年	
選択科目計			360	12					
卒業に必要な総授業時間数			1,080	36					

※1 ①2単位以上履修すること。

②国際コミュニケーションは、1科目以上履修すること。

③インターンシップは前期または後期の2グループに分けて実施する。各自の実施時期は本校より指定される。

履修モデルA：フードランゲージ（フランス語）1単位＋フードランゲージ（英語）1単位＋インターンシップ（校外実習）2単位 計4単位

履修モデルB：フードランゲージ（英語）1単位＋フードランゲージ（フランス語）1単位 計2単位

履修モデルC：フードランゲージ（英語）1単位＋インターンシップ（校外実習）2単位 計3単位

履修モデルD：フードランゲージ（フランス語）1単位＋インターンシップ（校外実習）2単位 計3単位

※2（公）全国調理職業訓練協会認定「介護食士3級認定資格」の資格取得科目。

※3 選択科目は学則で定める卒業に必要な総授業時間数には含まない。

※4 特論科目の中で、日程の関係で卒業式以降に実施されたものについては、認定しない。

授 業 科 目 名		授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名	
公 衆 衛 生 学 I		2 単 位 (60時間)	通 年	必 修	足 立 知 永 子	
授業の目的						
食生活と関係する健康についての知識と、健康づくりに関する法律、制度とその内容について学ぶ。						
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）						
回	時間数	月 日			項 目	概 要
		A	B	C		
1	1.2	4/14			調理師と健康 (1) 健康とは何か	健康の定義、高齢社会
2	3.4	4/21			調理師と健康 (2) わが国の健康水準	平均寿命、死亡率
3	5.6	4/28			調理師と健康 (3) 目指すべき健康とは	健康寿命、ヘルスプロモーション
4	7.8	5/12			調理師と健康 (4) 食と健康の関係①	メタボリックシンドローム、特定健康診査・特定保健指導
5	9.10	5/19			調理師と健康 (5) 食と健康の関係②	国民健康・栄養調査、食生活指針、食生活バランスガイド
6	11.12	5/26			調理師と健康 (6) 調理師の役割①	調理師の成り立ち、調理師法の目的、定義、免許
7	13.14	6/2			調理師と健康 (7) 調理師の役割②	免許の申請・変更等
8	15.16	6/9			調理師と健康 (8) 調理師の役割	調理師就業届け出制度、設置努力義務、調理技術審査
9	17.18	6/16			調理師と健康 (9) 調理師の役割	食生活における調理師の役割
10	19.20	6/23			調理師と健康 (10)	第 1 章の復習・まとめ
11	21.22	6/30			食生活と疾病 (1) 疾病の動向とその予防	疾病の動向、感染症
12	23.24	7/7			食生活と疾病 (2) 生活習慣病①	生活習慣病とは、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧
13	25.26	7/14			食生活と疾病 (3) 生活習慣病②	生活習慣病の国際比較と生活習慣の重要性、生活習慣病の予防
14	27.28	8/25			食生活と疾病 (4)	第 2 章の復習・まとめ
15	29.30	9/1			健康づくり (1) 健康づくり対策	疾病予防の段階、ゼロ次予防
16	31.32	9/8			健康づくり (2) 健康増進法①	責任の明確化、基本方針など、国民健康・栄養調査、保健指導・栄養指導の実施
17	33.34	9/15			健康づくり (3) 健康増進法②	特定給食施設での栄養管理、受動喫煙防止、特別用途表示等
18	35.36	10/6			健康づくり (4) 健康づくり対策	健康づくり対策の概要、健康日本 21 (第 2 次)
19	37.38	10/13			健康づくり (5) 健康づくり対策、健康教育	健康日本 21 (第 3 次)
20	39.40	11/10			健康づくり (5) 健康に関する食品情報	食品表示法による表示
21	41.42	11/17			健康づくり (6) 心の健康づくり	健康教育、心身相関とストレス、ストレスへの対処方法
22	43.44	11/24			健康づくり (7)	第 3 章の復習・まとめ
23	45.46	12/1			労働と健康 (1) 労働と健康①	作業環境と健康、作業条件と健康
24	47.48	12/8			労働と健康 (2) 労働と健康②	職業病、労働災害
25	49.50	12/15			労働と健康 (3) 調理師の職場環境	調理施設の環境、調理施設での労働災害
26	51.52	12/22			労働と健康 (4)	第 5 章の復習・まとめ
27	53.54	1/12			第 1 章 まとめ	ポイントを確認
28	55.56	1/19			第 2 章、3 章 (～健康教育) まとめ	ポイントを確認
29	57.58	1/26			第 3 章 (食品表示～)、第 5 章 まとめ	ポイントを確認
30	59.60	2/2			定期試験	
成績評価基準		定期試験 70%、小テスト・出席状況、授業態度等 30%				
教科書 参考書 教材		新調理師養成教育全書 『1. 食生活と健康』 全国調理師養成施設協会 配布プリント				

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
公 衆 衛 生 学 II					1 単位 (30時間)	後期	必修	中 村 悟 子
授業の目的								
調理師として必要な公衆衛生学の知識のうち、食育や環境について理解を深める。調理師としての公衆衛生の知識を習得し、環境汚染の予防や食育名との実践に役立てる知識を習得する。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	10/5	10/5	10/5	食育とは	食育の定義、食育の意義		
2	3.4	10/14	10/19	10/14	食育基本法の概要	食育基本法の概要		
3	5.6	10/19	10/21	10/19	食育における調理師の役割	食育における調理師の役割		
4	7.8	10/26	10/26	10/21	小テスト1 生活環境の衛生	小テスト（食育） 生活環境の知識、環境因子とは		
5	9.10	11/9	11/9	10/26	環境条件①	大気、気圧、温度、気候		
6	11.12	11/16	11/16	11/9	環境条件②	水		
7	13.14	11/30	11/30	11/16	環境条件③	住居、廃棄物		
8	15.16	12/7	12/7	11/30	環境条件④	電磁波、放射線		
9	17.18	12/9	12/14	12/7	小テスト2 環境汚染とその対策①	小テスト（環境条件） 公害とは、公害の歴史		
10	19.20	12/14	12/21	12/9	環境汚染とその対策②	大気汚染		
11	21.22	12/21	12/23	12/14	環境汚染とその対策③	水質汚染、騒音・振動・悪臭		
12	23.24	1/18	1/18	12/21	環境問題とその取り組み①	環境ホルモン、地球温暖化		
13	25.26	1/20	1/20	1/18	環境問題とその取り組み②	酸性雨、オゾン層の破壊		
14	27.28	1/25	1/25	1/25	環境問題とその取り組み③	循環型社会の形成、各種リサイクル法について		
15	29.30	2/1	2/1	2/1	定期試験			
成績評価基準		小テスト・定期試験：80% 出席率：20%						
教科書 参考書 教材		新調理師養成教育全書「食生活と健康」（公益社団法人 全国調理師養成施設協会） 配布プリント						

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
栄 養 学 I					2 単位 (60時間)	通年	必修	由井美和・金田さちこ・ 渋谷まさと
授業の目的								
栄養素の種類や働き、体内での消化・吸収・代謝などについて学び、健康づくりに必要な栄養学の基礎知識を修得する。 本講は（公社）全国調理職業訓練協会認定資格「介護食士3級」の規定科目を含む。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	4/10	4/9	4/8	栄養素の機能と健康（栄養と健康）	栄養素の種類 食品の成分と体の成分 食品中の栄養素と健康		
2	3.4	4/15	4/16	4/15	栄養素の機能と健康（炭水化物）	炭水化物とは		
3	5.6	4/24	4/23	4/22	栄養素の機能と健康（脂質）	脂質とは		
4	7.8	5/13	5/14	5/13	栄養素の機能と健康（たんぱく質①）	たんぱく質とは		
5	9.10	5/22	5/21	5/20	栄養素の機能と健康（たんぱく質②） 小テスト①	たんぱく質の栄養価（アミノ酸価・補足効果・機能性） 小テスト①		
6	11.12	5/29	5/28	5/27	栄養素の機能と健康（ビタミン①）	ビタミンの種類 脂溶性ビタミンの種類と働き		
7	13.14	6/12	6/11	6/10	栄養素の機能と健康（ビタミン②）	水溶性ビタミンの種類と働き		
8	15.16	6/19	6/18	6/17	栄養素の機能と健康（ミネラル①）	ミネラルの種類 多量ミネラルの種類と働き		
9	17.18	7/3	7/3	7/1	栄養素の機能と健康（ミネラル②）	微量ミネラルの種類と働き		
10	19.20	7/10	7/10	7/8	栄養素の機能と健康（その他の成分） 小テスト②	水分 機能性成分 小テスト②		
11	21.22	7/17	7/17	7/15	日本人の食事摂取基準	日本人の食事摂取基準とは 食事摂取基準の指標		
12	23.24	8/19	8/19	8/19	<介護食>高齢者の心理（高齢者の心理の理解）	加齢に伴う身体と健康状態の変化、それらによる精神面の影響を理解し、望ましい接し方について学ぶ		
13	25.26	8/19	8/19	8/19	<介護食>高齢者の心理（高齢者の食の支援/試験） <栄養学 I>時間栄養学	高齢者の食事に関する問題を解決し、安全で楽しく食事ができる方法を学ぶ 時間栄養学		
14	27.28	8/19	8/19	8/19	<介護食>医学的基礎知識（摂食嚥下）	摂食嚥下に関わる器官、摂食嚥下のプロセス、嚥下障害		
15	29.30	8/19	8/19	8/19	<介護食>医学的基礎知識（高齢者の身体機能の低下と生活習慣病/試験）	老化による身体機能の低下、高血圧		
16	31.32	8/31	9/1	9/1	食品の選択（1）	食品標準成分表		
17	33.34	9/7	9/8	9/8	食品の選択（2）	食品分類法 食事バランスガイド		
18	35.36	9/14	9/15	9/15	消化と吸収（食品の摂取） 栄養素の消化・吸収・代謝（1）	生理的欲求 心理的欲求 栄養管理 各消化器官での消化①		
19	37.38	10/14	10/14	10/13	栄養素の消化・吸収・代謝（2）	各消化器官での消化②		
20	39.40	10/21	10/22	10/20	栄養価計算	食品成分表を使用した栄養価計算		
21	41.42	11/4	11/5	11/4	コンピューター実習①	パソコンの基本操作 パソコンを使用した栄養価計算		
22	43.44	11/12	11/12	11/11	コンピューター実習②	パソコンを使用した栄養価計算 まとめ		
23	45.46	11/19	11/19	11/18	コンピューター実習③	メニュー表の作成		
24	47.48	11/25	11/25	11/24	栄養素の消化・吸収・代謝（3）	栄養素の吸収（栄養素の吸収経路）		
25	49.50	12/2	12/1	12/1	栄養素の消化・吸収・代謝（4）	栄養素の吸収（各栄養素の吸収）		
26	51.52	12/16	12/17	12/15	栄養素の消化・吸収・代謝（6）	栄養素の代謝（糖質・脂質・たんぱく質の代謝について）		
27	53.54	12/22	12/22	12/22	小テスト③ エネルギー代謝（1）	小テスト③ エネルギー代謝とは？		
28	55.56	1/6	1/7	1/6	エネルギー代謝（2）	エネルギー摂取量とエネルギー消費量（基礎代謝）		
29	57.58	1/15	1/14	1/12	エネルギー代謝（3）	エネルギー摂取量とエネルギー消費量（身体活動レベル・メッツ）		
30	59.60	1/20	1/19	1/19	定期試験	定期試験		
成績評価基準		栄養学 I 【小テスト・課題・ノート 40%、定期試験 60%】介護食【（高齢者の心理）出席状況 30%、授業態度 30%、課題提出・試験 40%】介護食【（医学的基礎知識）授業内小テスト、試験により評価しますが、授業外の時間でも受験機会を提供します】						
教科書 参考書 教材		栄養学 I 【新調理師養成教育全書「2 食品と栄養の特性」（（公社）全国調理師養成施設協会編）、新食品成分表 FOODS（とうほう）、配布プリント】 介護食【「介護食士講座 3 級・介護食士講座 3 級問題集」（（公社）全国調理職業訓練協会編）、介護食士講座 3 級／医学的基礎知識）、配布プリント】						

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
栄 養 学 II					1 単位 (30時間)	後期	必修	松 田 早 苗
授業の目的								
調理師が働く現場は多岐にわたっており、対象者のニーズにあわせた食事提供が求められている。この授業では各ライフステージの生理的特徴、疾患の病態、および栄養・食事について学び、各々のメニューを立案することで、適切な食事提供の習得を目指す。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	10/5	10/5	10/5	妊娠期・授乳期	妊娠期・授乳期の生理的特徴、栄養・食事について口述する。		
2	3.4	10/19	10/19	10/19	妊娠期のメニュープラン	つわり、妊娠貧血のメニューを立案し、絵コンテも制作する。		
3	5.6	10/26	10/19	11/9	乳児期	乳児期の生理的特徴、栄養・食事について口述する。		
4	7.8	11/9	10/26	11/9	離乳食のメニュープラン	離乳食完了期のメニューを立案し、絵コンテを制作する。		
5	9.10	11/16	10/26	11/16	成長期	成長期の生理的特徴、栄養・食事について口述する。		
6	11.12	11/30	11/9	11/16	幼児期のメニュープラン	幼児期の間食、思春期の夜食のメニューを立案し、絵コンテを制作する。		
7	13.14	11/30	11/16	11/30	更年期・高齢期	更年期・高齢期の生理的特徴、栄養・食事について口述する。		
8	15.16	12/7	11/30	12/7	高齢期のメニュープラン	高齢期の間食メニューを立案し、絵コンテを制作する。		
9	17.18	12/7	12/7	12/14	骨粗鬆症	骨粗鬆症の病態、栄養・食事について口述する。骨密度を測定し、各自データを評価する。		
10	19.20	12/14	12/14	12/14	骨粗鬆症予防のメニュープラン	骨粗鬆症予防のメニューを立案し、絵コンテを制作する。		
11	21.22	12/21	12/21	12/21	食物アレルギー	食物アレルギーの病態、栄養・食事について口述する。		
12	23.24	1/18	12/21	1/18	食物アレルギーのメニュープラン	食物アレルギーの除去食のメニューを立案し、絵コンテを制作する。		
13	25.26	1/18	1/18	1/25	肥満・高血圧	肥満・高血圧の病態、栄養・食事について口述する。		
14	27.28	1/25	1/25	1/25	肥満・高血圧のメニュープラン	肥満・高血圧の間食のメニューを立案し、絵コンテを制作する。		
15	29.30	2/1	2/1	2/1	定期試験			
成績評価基準		定期試験 60%、メニュー立案 40%						
教科書 参考書 教材		配布資料						

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
食品学・食品学実習					2単位 (60時間)	通年	必修	小澤陽子
授業の目的								
この科目を学ぶことにより、いろいろな食品の特性についての知識を得ることができます。そして、調理の際の食品の選択、調理法の工夫、栄養を考慮したメニューの開発などが適切に実施できるようになります。また、加工実習では食品の加工原理をもとにした加工食品を作ることにより、調理科学の理解を深めることができます。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	4/9	4/13	4/10	穀類①	穀類の特徴 米の構造、成分、種類、加工品		
2	3.4	4/16	4/20	4/24	穀類②	小麦の特徴、構造、成分、加工品 その他の穀類の特徴		
3	5.6	4/23	4/27	5/1	いもおよびでんぷん類	いも類、でんぷん類の特徴と成分		
4	7.8	4/30	5/11	5/8	砂糖および甘味料類	砂糖の種類と特徴 その他の甘味料の特徴		
5	9.10	5/7	5/18	5/15	小テスト① 豆類①	小テスト（穀類～甘味料類）大豆の特徴、成分、加工品		
6	11.12	5/28	5/25	5/22	豆類② 種実類 野菜類①	その他の豆類の特徴 種実類の特徴 野菜類の特徴と分類		
7	13.14	6/4	6/1	5/29	野菜類②	葉菜類、茎菜類、根菜類、果菜類、花菜類の特徴と成分		
8	15.16	6/11	6/8	6/5	果実類	果実類の特徴と分類、成分 果実類の加工品		
9	17.18	6/18	6/15	6/12	きのこ類・藻類	きのこ類、藻類の種類と特徴、成分		
10	19.20	6/29	6/22	6/19	小テスト② 魚介類①	小テスト（大豆～藻類）魚介類の分類と特徴		
11	21.22	7/2	6/29	6/26	魚介類②	魚介類の成分 死後硬直と鮮度		
12	23.24	7/9	7/6	7/3	魚介類③	主な魚介類の特徴 魚介類の加工品		
13	25.26	7/13	7/13	7/10	食肉類①	食肉類の定義 食肉の構造と成分 肉の熟成		
14	27.28	8/24	8/24	7/17	食肉類②	主な食肉の種類と特徴 食肉加工品		
15	29.30	8/31	8/31	8/28	卵類	鶏卵の特徴、構造、成分、物理的性質 鶏卵の鮮度 加工品		
16	31.32	9/10	9/7	9/7	乳類	牛乳の成分、特徴 乳製品の種類と特徴		
17	33.34	9/17	9/14	9/14	油脂類	植物性油脂、動物性油脂、加工油脂の特徴		
18	35.36	10/2	10/7	10/2	小テスト③ 菓子類	小テスト（魚介類～油脂類）菓子類の種類と特徴		
19	37.38	10/16	10/21	10/15	嗜好飲料類	嗜好飲料類（アルコール飲料、茶など）の種類と特徴		
20	39.40	11/4	11/4	10/16	調味料類・香辛料類 膨張剤	調味料類、香辛料類の種類と特徴 膨張剤の分類		
21	41.42	11/11	11/11	11/13	加工実習 A	化学的加工による加工食品を作る		
22	43.44	11/11	11/11	11/13		ジャムとカッターチーズを作る（pHや糖度の測定、試食）		
23	45.46	11/18	11/18	11/20	加工実習 B	こんにゃくを作る（pHの測定、試食） レポートの作成		
24	47.48	11/18	11/18	11/20		実習のまとめ（講義） 加工実習のテスト		
25	49.50	11/25	11/25	11/27	調理加工食品類・その他の食品	調理加工食品類、ゲル状食品、特別用途食品等の種類と特徴		
26	51.52	12/2	12/2	12/3	食品の加工と貯蔵①	食品加工の目的、加工法		
27	53.54	12/9	12/9	12/10	食品の加工と貯蔵②	食品の貯蔵法（乾燥法、漬物法、低温貯蔵法、ガス貯蔵法など）		
28	55.56	12/23	12/18	12/17	食品の生産と流通	食品の国内生産、食料自給率、食品の流通の仕組み		
29	57.58	1/6	1/6	1/8	小テスト④ 1年間のまとめ	小テスト（菓子類～食品の生産と流通） 定期試験対策		
30	59.60	1/13	1/13	1/20	定期試験	定期試験 授業ノート提出（記載状況確認）		
成績評価基準		定期試験 60% 加工実習のテストおよびレポート 20% 授業ノート記載状況 20%						
教科書 参考書 教材		①新調理師養成教育全書必修編2「食品と栄養の特性」（公社）全国調理師養成施設協会編 ②新食品成分表 FOODS（日本食品標準成分表） とうほう ③「食品学・実習 授業ノート」小澤編						

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
食 品 衛 生 学 I					2 単位 (60時間)	通年	必修	石 原 元 也
授業の目的								
食品の安全性の重要性を認識し、飲食による危害の原因とその予防法に関する知識や技術を習得するとともに、食品衛生に関する法規及び対策の目的や内容を理解し、食品衛生の管理を担う調理師としての自覚を養うことを目的とする。安全な食品を見極め、衛生的に調理する事により、食の安全性を確保できる唯一無二の人材となるべく学習をする。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	4/9	4/9	4/9	1 ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 本講座を受講するにあたっての各種注意事項 食による健康危害、安全確保のしくみ、食品衛生とは 		
2	3.4	4/16	4/16	4/16	2 食品安全と衛生			
3	5.6	4/23	4/23	4/23	3 食品の安全と法	<ul style="list-style-type: none"> 調理師の法的責務と専門性 食品安全基本法、食品衛生法 		
4	7.8	4/30	4/30	4/30	4 食品衛生法			
5	9.10	5/7	5/7	5/7	5 食品表示法	<ul style="list-style-type: none"> 食品表示制度（加工食品、生鮮食品） JAS 法、景品表示法、計量法 		
6	11.12	5/28	5/14	6/11	6 その他の法律			
7	13.14	6/4	5/21	6/11	7 食品安全行政	<ul style="list-style-type: none"> 中央組織、地方組織 微生物の種類、増殖条件 		
8	15.16	6/11	5/28	6/18	8 食品と微生物①			
9	17.18	6/18	6/4	7/2	9 食品と微生物②	<ul style="list-style-type: none"> 微生物の増殖条件、微生物汚染 変質及び関与微生物、変質の化学 		
10	19.20	7/2	6/18	7/2	10 食品の変質			
11	21.22	7/9	7/16	7/9	11 食品と化学物質①	<ul style="list-style-type: none"> 食品添加物総論、安全性評価 主な食品添加物とその用途 		
12	23.24	9/3	7/16	7/9	12 食品と化学物質②			
13	25.26	9/10	8/27	7/16	13 食品と有害元素	<ul style="list-style-type: none"> 主な有害元素 容器包装定義、取扱い、各種材料及び特性 		
14	27.28	9/10	8/27	7/16	14 器具・容器包装の衛生			
15	29.30	9/17	9/3	8/27	15 前期分まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 前期分講義のまとめ、前期分確認テスト対策 前期分確認試験（中間試験） 		
16	31.32	9/17	9/3	9/3	16 前期分確認試験			
17	33.34	9/24	9/10	9/24	17 食品による健康危害	<ul style="list-style-type: none"> 食中毒概要、分類、発生状況 細菌性食中毒の分類、感染侵入型食中毒 		
18	35.36	10/1	9/17	10/1	18 細菌性食中毒①			
19	37.38	10/15	9/24	10/1	19 細菌性食中毒②	<ul style="list-style-type: none"> 食品内毒素型食中毒、生体内毒素型食中毒 各種ウイルス性食中毒、予防法 		
20	39.40	10/15	10/22	10/15	20 ウイルス性食中毒			
21	41.42	11/12	10/22	10/22	21 自然毒食中毒	<ul style="list-style-type: none"> 動物性自然毒食中毒、植物性自然毒食中毒 過去の化学性食中毒事例、寄生虫症（魚介、食肉、野菜由来） 		
22	43.44	11/12	11/5	11/5	22 化学性食中毒、寄生虫症			
23	45.46	11/19	11/12	11/5	23 経口感染症、人畜共通感染症	<ul style="list-style-type: none"> 経口感染症。人畜共通感染症概要、予防法 食物アレルギー概要、BSE、鳥インフルエンザ等 		
24	47.48	11/26	11/19	11/26	24 食物アレルギー、他の健康障害			
25	49.50	12/3	12/10	11/26	25 食品の衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> 微生物制御、食品営業施設・設備の管理、異物混入防止、手洗い法、洗浄・消毒・殺菌 HACCP による衛生管理、食品衛生責任者等 		
26	51.52	1/7	12/10	12/3	26 HACCP、食品安全教育			
27	53.54	1/14	12/17	12/10	27 後期分まとめ	後期分講義のまとめ、後期分確認試験対策 後期分確認試験		
28	55.56	1/21	1/7	12/17	28 後期分確認試験			
29	57.58	1/21	1/21	1/7	29 年間のまとめ	年間を通じた講義のまとめ、定期試験対策 定期試験		
30	59.60	1/28	1/28	1/14	30 定期試験			
成績評価基準					定期試験 60%、確認試験（小テスト）20%、出席点・平常点 20%			
教科書 参考書 教材					新調理師養成教育全書必修編「3 食の安全と衛生」（公益社団法人 全国調理師養成施設協会） 配布プリント			

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
食品衛生学Ⅱ（衛生法規含む）					2単位 (60時間)	通年	必修	田 崎 達 明
授業の目的								
調理師に必要な食品衛生の基本的知識を修得するとともに、食の安全について包括的に理解することを目指します。 併せて、概要欄に掲げた各論の重点的項目について理解を深め、調理等の実務において事故発生を未然に防止できるよう想像力を高め、知識を得ることを目指します。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	4/9	4/9	4/9	食品衛生と法規（1） ＜教科書第1章・第2章＞	1) 食の安全性と衛生（食品衛生の概要） 2) 我が国の法規 3) 食品安全基本法と食品衛生法		
2	3.4	4/16	4/16	4/16				
3	5.6	4/23	4/23	4/23	食品衛生と法規（2） ＜教科書第1章・第2章＞ 食品と微生物＜教科書第3章＞	1) 食品衛生と関係法規 2) 我が国の食品衛生行政 3) 国際的組織及びその委員会など 1) 微生物とは 2) 微生物の食品への関与 3) 微生物の制御		
4	7.8	4/30	4/30	4/30				
5	9.10	5/7	5/7	5/7	食品の変質＜教科書第3章第2節＞	1) 食品の変質とは 2) 微生物による変質 3) 鮮度・腐敗 4) 化学的変質 5) 食品の加工中に生じる有害物質 6) 食品の変質防止法		
6	11.12	5/14	5/14	5/14				
7	13.14	5/21	5/21	5/21	食中毒（1） ＜第6章食品による健康被害＞	1) 食中毒とは何か 2) 我が国における近年の食中毒の発生状況 3) 細菌性感染型食中毒		
8	15.16	5/28	5/28	6/11				
9	17.18	6/4	6/4	6/18	食中毒（2） ＜第6章食品による健康被害＞	1) 細菌性毒素型食中毒 2) ウイルス性食中毒		
10	19.20	6/11	6/11	7/2				
11	21.22	6/18	6/18	7/9	食中毒（3） ＜第6章食品による健康被害＞	1) 魚介類より感染する寄生虫（第6章第7節） 2) 食肉より感染する寄生虫 3) その他＜第6章第8節、第9節及び第10節＞		
12	23.24	7/2	7/2	7/16				
13	25.26	7/9	7/9	8/27	食中毒（4） ＜第6章食品による健康被害＞	1) 自然毒による食中毒（第6章第5節） 1) 化学物質による食中毒（第6章第6節）		
14	27.28	9/3	7/16	8/27				
15	29.30	9/3	7/16	9/10	中間試験（小テスト）	小テスト（範囲1回～7回）		
16	31.32	9/10	8/27	9/17	食品中の汚染物質	1) カビ毒（マイコトキシン）		
17	33.34	9/17	9/3	10/1	食品中の汚染物質	1) 残留性有機汚染物質＜第4章第2節＞ 2) 内分泌かく乱化学物質 3) 放射性物質＜第4章第3節＞		
18	35.36	9/24	9/10	10/1				
19	37.38	10/1	9/17	10/15	食品添加物（1） ＜第4章食品と化学物質＞	食品添加物の概要：1) 食品添加物とは 1) 食品添加物の安全性評価		
20	39.40	10/15	9/24	10/22				
21	41.42	11/12	9/24	11/5	食品添加物（2） 残留農薬など＜第4章及び第5章＞	食品添加物（2）：1) 食品添加物の分類など 残留農薬など：1) ポジティブリスト制度 2) 農薬・動物用医薬品 その他：1) 容器及び容器包装 1) 遺伝子組換え食品とゲノム編集食品		
22	43.44	11/19	10/22	11/5				
23	45.46	11/19	11/5	11/26	食品の衛生管理＜第7章＞ 異物混入	1) HACCPとは何か（7原則と12手順） 2) 「HACCPに基づく衛生管理」と「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」との違い（大量調理衛生管理マニュアルなど） 3) 異物混入の概要：1) 動物性異物 2) 植物性異物 2) 鉱物性異物		
24	47.48	11/26	11/12	12/3				
25	49.50	11/26	11/12	12/10	食品表示制度（1） ＜第2章食品表示・制度＞	1) 食品表示法の概要 2) 食品表示基準 2) 一般用加工食品の表示事項（名称、原材料名、添加物、アレルギー＜特定原材料等＞、L-フェニルアラニン化合物、原材料産地名、内容量、期限表示など）		
26	51.52	12/3	11/19	12/10				
27	53.54	12/3	1/7	12/17	食品表示制度（2） ＜第2章食品表示・制度＞	1) 保健事項に関する食品表示基準（栄養成分表示） 1) 保健機能食品		
28	55.56	1/14	1/14	12/17				
29	57.58	1/21	1/21	1/7	期末試験	全範囲		
30	59.60	1/28	1/28	1/7				
成績評価基準					1) 出席率10% 2) 学期末試験80% 3) 通常点（小テスト）10%			
教科書 参考書 教材					新調理師養成教育全書 第3巻 食品の安全と衛生（公益社団法人 全国調理師養成施設協会） 参考資料等は、必要に応じて授業開始時に配布する。			

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
食品衛生学実験実習					1単位 (30時間)	前期	必修	平井昭彦
授業の目的								
科学的根拠を基にして、食品衛生を自ら推進できる調理師となることを目標とする。このため現場で使用できる簡易検査法を主に、微生物学的検査法、理化学的検査法さらに衛生管理システムについて修得する。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1~4	4/13	4/15	4/16	実習の説明と注意事項 微生物学実習①	食品衛生関係ビデオ視聴 微生物学実験実習の準備（培地作成と滅菌）		
2	5~8	4/20	4/22	4/23	微生物学実習② 手指の清浄度の検査 飲料水の衛生検査	①の培地を用いて手指の汚染度測定、落下細菌数・真菌数の測定 ATP法を用いた手指の汚染度測定 水道水中の残留塩素の測定		
3	9~12	5/11	5/13	5/7	微生物学実習③ 細菌の簡易検査（1）	②で培養した細菌集落、真菌集落の観察、スケッチ 簡易検査キットを用いた食品の細菌検査		
4	13~16	5/18	5/20	5/14	細菌の簡易検査（2） 食品添加物の検査①	（1）の検査結果を判定 清涼飲料水のビタミンC、干びょうの漂白剤の検出		
5	17~20	5/25	5/27	5/21	食品添加物の検査②	天然色素と合成タール系色素の検出と判定		
6	21~24	6/1	6/3	5/28	容器の洗い残し簡易検査 食品の簡易検査	脂肪、でんぷん、たんぱく質残留の検査 牛乳、卵の鮮度、油の酸敗の判定		
7	25~28	6/8	6/10	6/4	食品衛生管理計画（HACCP）	一般的衛生管理計画書の作成 重要管理点計画書の作成		
8	29~30	6/15	6/17	6/11	実習ノートの提出 筆記試験	各自の実習ノートを完成させて提出 テスト（30分）		
成績評価基準		テスト40%、実習ノート40%、授業態度20%						
教科書 参考書 教材		「食品衛生学実習書」香川調理製菓専門学校 「新調理師教育全書3 食品の安全と衛生」（公社）全国調理師養成施設協会						

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名	
調理理論 I (食文化概論含む)					2 単位 (60時間)	通年	必修	土屋 純一・皆田健太郎・ 広田 昌利	
授業の目的									
食品の性質を理解し、調理の過程において起こる現象をとらえ、科学的に解明していることにより、料理を美味しく作る方法が解る。美味しさの理由を理論として学び、食品の知識を得て、衛生的で安全な調理のポイントを学習する。ミニテストを毎回実施することで、理解を深める。									
授業計画 (授業計画は変更になる場合があります)									
回	時間数	月 日			項 目	概 要			
		A	B	C					
	1 ~ 60	4/6 ~ 1/22			日本料理、西洋料理、中国料理の説明と解説。	各調理実習授業における、レシピと調理方法の重要なポイントを解説する。教科書の項目をミニテスト形式で実施、解説する。			
成績評価基準		筆記試験 100%							
教科書 参考書 教材		新調理師養成教育全書「調理概論と食文化概論」(公社) 全国調理師養成施設協会編							

授 業 科 目 名		授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名	
調理理論Ⅱ（食文化概論含む）		2単位 (60時間)	後期	必修	土屋純一・皆田健太郎・ 広田昌利	
授業の目的						
「調理理論と食文化概論」の知識の確認を問題集を解きながら、理解を深める。						
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）						
回	時間数	月 日			項 目	概 要
		A	B	C		
1 ～ 60	1 ～ 60	7/22～12/23			日本料理、西洋料理、中国料理の説明と解説。	各調理実習授業におけるレシピと調理方法の重要なポイントを解説する。
成績評価基準		出欠席 30%・筆記試験 70%				
教科書 参考書 教材		調理師養成教育全書 「調理理論と食文化概論」 「調理師養成教育全書必携問題集」				

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
献立作成（四群点数法含む）					1 単位 (30時間)	前期	必修	由 井 美 和
授業の目的								
調理師は専門の技と知識を駆使し、おいしく、美しく、安全で安心して食べられる料理を作り、提供することが求められている。健康面に配慮したメニュー提案を求められることもあるであろう。そのような様々なニーズに応えられるよう、献立作成の基本と四群点数法（なにをどれだけ食べたらよいかを表す食事法）の基本を学び、栄養バランスのとれた献立作成の実際を学ぶ。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	4/14	4/13	4/14	献立作成の基本①	献立の基本構成とその例 主食・主菜・副菜について		
2	3.4	4/21	4/20	4/21	献立作成の基本②	献立の種類と方針 献立作成の手順		
3	5.6	4/28	4/27	4/28	献立作成の基本③	献立作成に必要な基礎知識（1） 食材の概量、食品の廃棄率と正味重量		
4	7.8	5/12	5/1	5/12	献立作成の基本④	献立作成に必要な基礎知識（2） 発注書の作成、料理の1人分の目安量 調味パーセント		
5	9.10	5/19	5/18	5/19	献立作成に挑戦しよう	（演習）テーマを決めて、1食分の献立を作成してみよう		
6	11.12	5/26	5/25	5/26	四群点数法について①	四群点数法の歴史と成り立ち 1点実用値・基本点数について		
7	13.14	6/2	6/1	6/2	四群点数法について②	四群点数法 1群・2群の特徴		
8	15.16	6/9	6/8	6/9	四群点数法について③	四群点数法 3群・4群の特徴		
9	17.18	6/16	6/15	6/16	四群点数法について④	様々な食材の概量と1点実用値 ＜課題1＞食事記録の記入（宿題）⇒食事記録と四群点数法①		
10	19.20	6/23	6/22	6/23	自分の食事を見つめてみよう①	＜課題1＞食事記録と四群点数法①		
11	21.22	6/30	6/29	6/30	自分の食事を見つめてみよう②	＜課題1＞食事記録と四群点数法② 提出		
12	23.24	7/7	7/6	7/7	四群点数法と献立作成 自分に合った1日の献立を考えてみよう①	四群点数法の計算方法 ＜課題2＞バランスの取れた1日分の献立を考えよう！①		
13	25.26	7/14	7/13	7/14	四群点数法と献立作成 自分に合った1日の献立を考えてみよう②	＜課題2＞バランスの取れた1日分の献立を考えよう！②		
14	27.28	8/25	8/24	8/21	四群点数法と献立作成 自分に合った1日の献立を考えてみよう③	＜課題2＞バランスの取れた1日分の献立を考えよう！③提出		
15	29.30	9/1	8/31	8/25	定期試験			
成績評価基準					ノート10%、課題30%、定期試験60%			
教科書 参考書 教 材					栄養と調理技能検定公式ガイド3級（日本栄養大学出版部） 食品80キロカロリーガイドブック（日本栄養大学出版部） 配付資料（専用ノート）・電卓・レシピ本等			

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
集団調理理論（調理施設設備含む）					1 単位 (30時間)	後期	必修	小 野 仁 子
授業の目的								
集団給食の業務全般を集団給食実習と関連付け授業を実施し、大量調理の献立作成のポイント、衛生管理の重要性、基本技術の要点を中心に大量調理の概要を理解する。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	4/8	4/10	4/13	集団給食の意義と目的種類と特徴	特定給食施設とは、その目的。各施設の特徴と実施内容。		
2	3.4	4/15	4/24	4/20	集団給食の献立	献立作成するための要点と実際の調理業務と関連。		
3	5.6	4/22	5/1	4/27	食品の購入方法と管理、作業管理	食材の大量購入と業者の選定方法。食品保存方法、職務分担		
4	7.8	5/13	5/8	5/11	衛生管理①	大量調理での衛生の重要性を知り、具体的な方法も確認する。		
5	9.10	5/20	5/15	5/18	衛生管理②	同上		
6	11.12	5/27	5/22	5/25	大量調理の基本技術	大量調理の基本技術の要点。各調理のポイント		
7	13.14	6/3	5/29	6/1	大量調理の基本技術②	大量調理の基本技術の要点。各調理のポイント		
8	15.16	6/10	6/5	6/8	中間テスト	筆記テスト		
9	17.18	6/17	6/12	6/15	調理施設①	建物（施設）概要 建築設備概要 作業環境 調理施設のトレンド		
10	19.20	6/26	6/19	6/22	調理施設②	清濁分離 一般衛生と HACCP システム ISO22000		
11	21.22	6/29	6/26	6/29	調理施設③	天井 壁 床 電気設備 換気空調設備 衛生設備（排水側溝・グリストラップ）		
12	23.24	7/13	8/21	7/6	調理施設④	作業環境・・・室内温度・湿度・気流速・照度・騒音・ドライ厨房・フードサービス・魅せる調理場		
13	25.26	8/28	9/4	7/13	調理設備①	調理施設の設計 調理場の面積（交差汚染・危険性・生産性・意欲）		
14	27.28	9/2	9/9	8/24	調理設備②	調理機器・・・加熱調理機器・冷凍、冷蔵機器、下処理加工機器その他		
15	29.30	9/9	9/11	8/31	テスト	筆記テスト		
成績評価基準					定期試験 50% 出席率 30% 授業態度 20%			
教科書 参考書 教材					「集団調理理論・校内集団給食調理実習」 新調理師養成施設教育全書「6 総合調理実習」（公益社団法人）全国調理師養成施設協会			

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
日本料理基礎・応用					3単位 (90時間)	通年	必修	皆田健太郎・秋山莉玖 他
授業の目的								
日本料理の基本技術の向上から応用技術まで丁寧に実習を行い勉強する。日本の四季、行事食、五味五色五法についても理解し調理に繋げる。この実習は、実務経験のある教員による授業となります。過去に勤務経験のあるホテルあるいは専門店等の現場で培った技術に基づいて授業を行います。また高級店の特別講師によるデモンストレーションを行い、就職に役立つ授業です。介護食についても学ぶ。本講は(公社)全国調理職業訓練協会認定資格(介護食士3級)の規定科目である。								
授業計画(授業計画は変更になる場合があります)								実習作品 70品
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1~3	4/14	4/10	4/14	調理師の心構え	調理道具、衛生検査、頭髮検査、ロッカー整理、細菌検査など		
2	4~6	4/21	4/24	4/21	御飯の炊き方、煮干しの出し汁	白飯、味噌汁、鮭の塩焼き		
3	7~9	5/8	5/1	5/8	春 鰹の出し汁(調味パーセント)	かき玉汁、胡瓜の酢の物、鱈の木の芽焼き、白飯		
4	10~12	5/13	5/15	5/13	春 鰹①	鰹の塩焼き、お椀、白飯		
5	13~15	5/19	5/20	5/19	春 鰹②	鰹の蒲焼き、しじみの味噌汁、白飯		
6	16~18	5/22	5/22	5/22	総合技術(ザガット栗原代表)	本校企業奨学金協力企業		
7	19~21	5/26	5/29	5/29	春 鰹③	鰹の姿焼き、お椀、白飯		
8	22~24	6/2	6/5	6/2	包丁法(前期実技特訓)	包丁とぎ、陰陽説、切り方色々		
9	25~27	6/9	6/12	6/9	前期実技試験模擬練習	鰹の三枚おろし、大根の桂むき、大根の千六本		
10	28~30	6/26	6/23	6/26	基本、だし巻き玉子、	出汁巻き玉子、大根のそぎ切り		
11	31~33	6/30	7/1	6/30	介護食実習(日本料理)	鰹のなめろう茶漬け、鰻の金波汁		
12	34~36	7/7	7/10	7/7	夏 鮎と茶碗蒸し	茶碗蒸し、鮎塩焼き、鮎飯		
13	37~39	8/20	8/21	8/20	夏 玉子豆腐	高級料亭風そうめん、玉子豆腐		
14	40~42	9/1	9/1	9/1	総合技術(野崎洋光)	超有名料理人(元、分とく山総料理長)		
15	43~45	9/8	9/7	9/8	前期実技試験	鰹の三枚おろし、大根の桂むき、大根の千六本		
16	46~48	10/2	10/2	9/16	夏秋 鰹を使って 刺身 ステーキ	鰹のたたき、鰹のステーキ、鰹めし、鰹の味噌汁		
17	49~51	10/16	10/7	10/16	紅葉の季節、焼物、揚げ物、	秋魚の塩焼き、竜田揚げ、さつま芋御飯、いが栗素麺		
18	52~54	10/23	10/21	10/23	秋 天ぷら	季節の天婦羅、白飯、あさりの味噌汁		
19	55~57	10/28	10/28	10/28	作品展準備	学園祭イベント		
20	58~60	10/29	10/29	10/29	作品展準備	学園祭イベント		
21	61~63	11/10	11/11	11/10	紅葉鯛を使って	鯛めし、鯛の味噌汁、小鯛の姿造り、		
22	64~66	11/25	11/20	11/25	冬 寿司飯を使って	海鮮ちらし寿司、あさりの味噌汁		
23	67~69	12/2	12/1	12/2	介護食実習(日本料理)	もずく粥、など		
24	70~72	12/15	12/17	12/15	冬 特別実習(おせち1日目)	黒豆、栗きんとん、数の子、お雑煮、五色なますなど		
25	73~75	12/16	12/18	12/16	冬 特別実習(おせち2日目)	伊達巻、田作り、鱈の照り焼き、紅白蒲鉾、寒椿いくら、いりどり		
26	76~78	12/23	12/22	12/23	後期実技試験模擬練習	出汁巻き玉子、大根のそぎ切り		
27	79~81	1/19	1/19	1/19	総合技術(稲葉恭二)香川OB	エビキャズ代表、(元つきぢ田村、箱根強羅花壇、大谷山荘総料理長)		
28	82~84	1/22	1/20	1/22	後期実技テスト	出汁巻き玉子、大根のそぎ切り		
29	85~87	1/29	2/8	1/29	春のおとずれの料理	春海老と山菜の天井、蛤のお吸い物		
30	88~90	2/17	2/17	2/17	卒業制作展準備期間	イベント準備		
成績評価基準		実技試験 50%、遅刻欠席・身だしなみ・挨拶・挨拶 20%、レポート 30%						
教科書 参考書 教材		日本料理実習ノート(黄色)、教科書4番、5番、介護食士講座3級(公社)全国調理職業訓練協会編						

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
西洋料理基礎・応用					3単位 (90時間)	通年	必修	広田昌利他
授業の目的								
西洋料理の基本を中心に、包丁の使い方、フライパンの操作、フォンの取り方、野菜・鶏の扱い方、及びその調理法の知識・技術を修得する。またトレーニング実習を実習時間内に組み入れ、基本技術の向上をはかる。サーモン・鶏・鴨・仔羊・牛フィレ肉などの扱い方の調理法を理解し、ソース・付け合わせから盛り付けまでを通して、総合的な知識・技術を修得する。また、前期同様、トレーニング実習を組み入れ、基本技術の向上ができるようになる。この実習授業は、実務経験のある教員による、授業となります。過去に勤務経験のあるホテルあるいは専門店等の現場で、培った技術に基づいて授業を行います。本講は(公社)全国調理職業訓練協会認定資格「介護食士3級」の規定科目である。								
授業計画(授業計画は変更になる場合があります)								実習作品 70品
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1~3	4/10	4/8	4/10	道具の名前と包丁の研ぎ方(広田)	包丁の研ぎ方		
2	4~6	4/24	4/15	4/24	野菜の切り方Ⅰ(広田)	基本的な切り方		
3	7~9	5/1	4/28	5/1	野菜の切り方Ⅱ(広田)	ジュリエンス、ヴィネグレット		
4	10~12	5/12	5/12	5/12	総合技術	「ロイヤルパークホテル」総料理長 松山昌樹先生		
5	13~15	5/15	5/19	5/15	野菜の切り方Ⅲ(広田)	デ、マヨネーズ(乳化について)		
6	16~18	5/29	5/27	5/29	fondについて(介護食①)(広田)	西洋のfond(出汁)とスープ		
7	19~21	6/5	6/3	6/5	前期実技試験課題(広田)	人参のシャトー、ジュリエンス、ブリュノワーズ		
8	22~24	6/12	6/10	6/12	鶏について(広田)	四つ取り		
9	25~27	6/23	6/26	6/23	鶏料理Ⅰ(ムネ肉)(広田)	パネ「コルドンブルー」		
10	28~30	7/10	7/8	7/10	鶏料理Ⅱ(モモ肉)(広田)	煮込み「フリカッセ ドゥ プレー」		
11	31~33	7/14	7/15	7/14	オードブルについて(広田)	冷前菜「スモークサーモン」「ムース」		
12	34~36	7/17	7/17	7/17	総合技術	「セルリアンタワー東急ホテル」名誉総料理長 福田順彦先生		
13	37~39	8/25	7/15	8/25	パスタについて(広田)	スパゲッティ アマトリチャーナ		
14	40~42	9/4	9/2	9/4	前期実技試験(広田)	シャトーむき、ジュリエンス、ブリュノワーズ		
15	43~45	9/15	9/9	9/15	魚料理Ⅰ(広田)	魚の焼き方、ポワレ、ブルブランソース		
16	46~48	9/18	9/18	9/18	総合技術	「ミリアルリゾートホテルズ」宮蘭純一先生		
17	49~51	10/30	10/30	10/30	作品展			
18	52~54	10/30	10/30	10/30	作品展			
19	55~57	10/14	10/13	10/14	魚料理Ⅱ(広田)	ポシェ、ヴァンプランソース		
20	58~60	10/21	10/16	10/21	牛肉料理Ⅰ(広田)	牛フィレ肉のポワレ、マデラ酒のソース		
21	61~63	11/13	11/4	11/13	牛肉料理Ⅱ(広田)	牛サーロイン肉のグリル、赤ワインのソース		
22	64~66	11/18	11/17	11/18	後期実技試験課題(広田)	オムレツ、ピラフ、シャトーむき		
23	67~69	11/20	11/27	11/20	ルーについて(広田)	マカロニグラタン		
24	70~72	12/4	12/8	12/4	鴨料理について(広田)	鴨ムネ肉のロースト、ピガラードソース		
25	73~75	12/11	12/16	12/11	西洋料理の介護食②(広田)	西洋料理における介護食の調理技法を理解する		
26	76~78	1/8	1/6	1/8	後期実技試験練習(広田)	オムレツ、ピラフ、シャトーむき		
27	79~81	1/13	1/12	1/13	後期実技試験(広田)	オムレツ、ピラフ、シャトーむき		
28	82~84	1/15	1/15	1/15	総合技術	デモンストレーションと試食		
29	85~87	2/3	2/16	2/3	仔羊料理について(広田)	仔羊のロースト、ベルシヤード		
30	88~90	2/21	2/21	2/21	卒業制作展			
成績評価基準		実技試験70%、レポート30%(出欠席・平常点含む)						
教科書 参考書 教材		西洋料理教科書・「介護食士3級」(公社)全国調理職業訓練協会編 エスコフィエの技						

授 業 科 目 名		授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名	
中国料理基礎・応用		3単位 (90時間)	通年	必修	土屋純一・小野仁子	
授業の目的						
中国料理の基本を中心に授業を進め、応用として専門的な調味料や調理法について深く学習する。トレーニング実習を組み入れ、基本技術の向上ができるようになる。この実習は、実務経験のある教員による授業になります。過去に勤務経験のあるホテルあるいは専門店等の現場で培った技術に基づいて授業を行います。本講は(公社)全国調理職業訓練協会認定資格「介護食士3級」の規定科目である。						
授業計画(授業計画は変更になる場合があります)					実習作品 60品	
回	時間数	月 日			項 目	概 要
		A	B	C		
1	1~3	5/20	5/13	5/20	実習の進め方、道具の手入れ扱い方(土屋)	調理実習の進め方、包丁の研ぎ方、鍋ふりを学ぶ
2	4~6	5/27	5/26	5/27	野菜の切り方(土屋)	包丁の研ぎ方、各種包丁法を学ぶ、ミニテスト
3	7~9	6/3	6/2	6/3	総合技術①	赤阪 四川飯店 総料理長 鈴木広明先生
4	10~12	6/10	6/9	6/10	湯(スープ)について(土屋)	スープの取り方、種類について、酸辣湯、清蒸肉元湯、トレーニング
5	13~15	6/16	6/17	6/16	前菜について(土屋・小野)	棒棒鶏、姜汁墨魚花、飾り切り、トレーニング
6	16~18	6/19	6/19	6/19	炒について①(土屋)	滑蛋炒蝦仁、豆芽炒肉片、トレーニング
7	19~21	7/3	6/30	7/3	炸について①(土屋)	干炸鷄子塊、春巻、トレーニング
8	22~24	7/8	7/7	7/8	炒・炸について①(土屋)	蛋炒飯、魷魚炸雲吞、包丁研ぎ
9	25~27	8/21	8/20	8/21	前期実技試験模擬(土屋)	炒飯、蛋皮、大根3種切り
10	28~30	9/2	9/4	9/2	総合技術②	ザ・プリンス パークタワー東京
11	31~33	9/9	9/8	9/9	炒・炸について②(土屋)	回鍋肉、酥炸双様、包丁研ぎ
12	34~36	10/7	10/2	10/7	焼について(土屋)	乾焼蝦仁、香蒜焗鰻魚、包丁研ぎ、トレーニング
13	37~39	10/6	10/6	10/6	点心について①(土屋)	水餃子、中国スイーツ、トレーニング
14	40~42	10/13	10/14	10/13	炒・炸について③(土屋)	豉油炒麵、芝麻球2種、トレーニング
15	43~45	10/29	10/29	10/29	前期実技試験(土屋)	炒飯、蛋皮、大根3種切り
16	46~48	10/29	10/29	10/29	介護食実習① 蒸すについて(土屋)	清蒸魚、軟蒸水蛋、包丁研ぎ、トレーニング
17	49~51	11/4	11/10	11/4	総合技術③	東天紅
18	52~54	11/11	11/13	11/11	点心について②(土屋)	焼売、鍋貼餃子、トレーニング
19	55~57	11/17	11/18	11/17	作品展①	
20	58~60	12/1	12/2	12/1	作品展②	
21	61~63	12/9	12/9	12/9	麵について(土屋・小野)	什錦炸麵、干焼伊府麵、トレーニング
22	64~66	12/18	12/11	12/18	後期実技試験模擬(土屋)	煎蛋、大根片、鶏人參
23	67~69	12/22	12/23	12/22	溜について(土屋)	糖醋肉、香醋肉塊、磨菇紅汁鱈魚、トレーニング
24	70~72	1/12	1/13	1/12	介護食実習② 点心について③(土屋)	菜肉包、中国スイーツ豆花、トレーニング
25	73~75	2/16	2/15	2/16	総合技術④	アール・ティーカーボレーション/鼎泰豊(デインタイフォン)
26	76~78	2/18	2/18	2/18	米について(土屋・小野)	什錦鍋巴、炒米粉、お粥、トレーニング
27	79~81	12/22	12/23	12/22	特殊調味料について(土屋)	沙茶醬燒鷄塊、陳麻婆豆腐、トレーニング
28	82~84	1/12	1/13	1/12	後期実技試験(土屋)	煎蛋、大根片、鶏人參
29	85~87	2/10	1/29	2/10	特殊材料について(土屋)	紅焼排翅、干貝燉鷄湯、冷拌海蜇皮、トレーニング
30	88~90	2/18	2/18	2/18	卒業制作展	
成績評価基準		実技試験 70%・レポート 30%(出欠席・平常点も含む)				
教科書 参考書 教材		新調理師養成教育全書「調理理論と食文化概論」(公社)全国調理師養成施設協会編 新調理師養成教育全書「調理実習」(公社)全国調理師養成施設協会編				

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
製菓・製パン基礎					1単位 (30時間)	通年	必修	遠藤徳夫・川内唯之 他
授業の目的								
洋菓子・製パンの基本生地や、基本の技術習得を目指す。ならびに素材の知識と性質を理解できるようになる。この実習は、実務経験のある教員になります。過去に勤務経験のあるホテルあるいは専門店等で培った技術に基づいて実習を行います。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								実習作品 10品
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	7/21			製パン基礎①（遠藤）	イタリアのパン（フォカッチャ）		
2	3.4	8/28			製パン基礎②（遠藤）	フランスのパン（ヴィエノワ・バゲット）		
3	5.6	9/11			製パン応用（遠藤）	日本のパン（菓子パン他）		
4	7.8	10/20			共立て生地 ジェノワーズ（霞川）	仕込み方～焼成まで ショートケーキ		
5	9.10	10/27			パート・プリゼ（川内）	仕込み方～焼成まで ダークチェリーのフラン		
6	11.12	11/24			パート・シュー（川内）	仕込み方～焼成まで シュークリーム		
7	13.14	1/26			別立て生地 ビスキュイ（霞川）	仕込み方～焼成まで フルーツロールケーキ		
8	15.16	2/2			パート・シュクレ（霞川）	仕込み方～焼成まで フルーツタルト		
9	17.18	2/9			レアチーズケーキ（霞川）	デザート仕上げ方		
10	19.20	2/12			チュロス（霞川）	デザート仕上げ方		
成績評価基準		出席率 50% レポート 50%						
教科書 参考書 教材		プリント						

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
特 殊 調 理 実 習					1 単位 (30時間)	通年	必修	小 野 仁 子
授業の目的								
「健康に生きる」を考えながら食材、調理法、生活習慣病、食行動などから理論、実習を行い理解できるようになる。 本講は（公社）全国調理職業訓練協会認定資格（介護食士3級）の規定科目である。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								実習作品 25品
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1~3	6/17	6/16	6/17	調味%について味覚の感じ方	調味%、素材の切り方、だしの違い、調理法、調理器具による味覚の感じ方の違いについて学ぶ		
2	4~6	7/1	7/3	7/1	食物繊維の多い食事	食物繊維の働きや腸内環境を整えることにより健康になることを学ぶ		
3	7~9	7/15	7/14	7/15	消化・吸収	胃腸障害、食欲不振における食事対策		
4	10~12	8/26	8/25	8/26	カロリーコントロール	適正体重を保つための必要性、食品の選択、調理方法によってエネルギーを下げる方法を考える		
5	13~15	9/14	9/15	9/14	糖尿病	糖尿病の人の食事に用いる食品の選び方 調理法の工夫		
6	16~18	10/27	10/23	10/27	高血圧	塩分過剰摂取と生活習慣病との関係 薄味にする調理の工夫		
7	19~21	11/27	11/25	11/27	脂質異常症	脂質異常症の人の食事のに用いる食品の選び方 調理法の工夫		
8	22~24	12/8	12/4	12/8	食物アレルギー	どのようなアレルギーがあるか、代替食品の考え方とその調理		
9	25~27	1/6	1/8	1/6	腎臓病	高エネルギー食、低ナトリウム食、腎臓機能に応じたタンパク質の考え方、取り方		
10	28~30	1/20	1/22	1/20	貧血・骨粗しょう症	鉄を多く含む食品 カルシウムを多く含む食品 上手な採り方 組み合わせ方		
成績評価基準								
		出席率 40% レポート 30% 授業態度 30%						
教科書 参考書 教材		配布プリント						

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
集 団 給 食 調 理 実 習					2 単 位 (60時間)	通 年	必 修	小 野 仁 子 他
授業の目的								
大量調理の重要なポイントを実践形式で学ぶ								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	5/14	4/30	5/28	実習シミュレーション①（実習室）	主菜・副菜・主食汁・デザート・マネージャーに分かれ作業し 仕事内容を学ぶ		
2	3.4							
3	5.6	5/21	5/7	6/4	実習シミュレーション②（実習室）	主菜・副菜・主食汁・デザート・マネージャーに分かれ作業し 仕事内容を学ぶ		
4	7.8							
5	9.10	7/16	7/2	9/3	実習シミュレーション① (総合調理実習室)	主菜・副菜・主食汁・デザート・マネージャーに分かれ作業し 仕事内容を学ぶ 実際に総合調理実習室を使用し調理機器、場所に慣れる		
6	11.12							
7	13.14							
8	15.16	8/27	7/9	9/10	実習シミュレーション② (総合調理実習室)	主菜・副菜・主食汁・デザート・マネージャーに分かれ作業し 仕事内容を学ぶ 実際に総合調理実習室を使用し調理機器、場所に慣れる		
9	17.18							
10	19.20							
11	21.22	10/22	10/1	11/12	大量調理の実践① (総合調理実習室)	実際に喫食者（学生）に食べてもらい、大量調理、サービス、 後片付け、時間管理を学ぶ。		
12	23.24							
13	25.26							
14	27.28							
15	29.30	11/5	10/15	11/19	大量調理の実践② (総合調理実習室)	実際に喫食者（学生）に食べてもらい、大量調理、サービス、 後片付け、時間管理を学ぶ。		
16	31.32							
17	33.34							
18	35.36							
19	37.38	12/10	11/26	1/21	大量調理の実践② (総合調理実習室)	実際に喫食者（学生）に食べてもらい、大量調理、サービス、 後片付け、時間管理を学ぶ。		
20	39.40							
21	41.42							
22	43.44							
23	45.46	12/17	12/3	1/28	大量調理の実践② (総合調理実習室)	実際に喫食者（学生）に食べてもらい、大量調理、サービス、 後片付け、時間管理を学ぶ。		
24	47.48							
25	49.50							
26	51.52							
27	53.54	10/31		作品展	来校者に喫食してもらい、大量調理、サービス、を学び、合 わせて会計管理、時間管理を学ぶ。			
28	55.56							
29	57.58	11/1		作品展				
30	59.60							
成績評価基準		実習での行動と対応・衛生管理 50% 実習レポート内容 30% 出席状況 20%						
教科書 参考書 教 材		「集団調理理論・校内集団給食調理実習」 新調理師養成施設教育全書 「6 総合調理実習」（公益社団法人）全国調理師養成施設協会						

授 業 科 目 名		授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名	
キャリアガイダンス		1単位 (30時間)	前期	必修	竹内智子・土屋純一	
授業の目的						
①筆記試験対策として、採用試験適性検査（SPI）を中心に問題を解き、基礎知識と一般常識を身につける。 ②社会人として求められる「ビジネスマナー」や「コミュニケーション能力」を身につけ実践することにより、面接試験で自分の強みを発揮できるようになる。						
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）						
回	時間数	月 日			項 目	概 要
		A	B	C		
1	1.2	4/13	4/9	4/13	筆記試験対策 就職に向けての意識づけ	小テスト（1）／解答・解説 目標設定／PDCAシート作成（提出物①）
2	3.4	4/20	4/16	4/20	筆記試験対策 ビジネスマナー①	小テスト（2）／解答・解説 あいさつ・笑顔・身だしなみ
3	5.6	4/27	4/23	4/27	筆記試験対策 ビジネスマナー②	小テスト（3）／解答・解説 立ち居振る舞い・電話応対・その他のマナーについて
4	7.8	5/11	5/14	5/11	筆記試験対策 履歴書作成①	小テスト（4）／解答・解説 住所・学歴などの正式な書き方
5	9.10	5/18	5/21	5/18	筆記試験対策 履歴書作成②	小テスト（5）／解答・解説 効果的な志望理由と自己PRの書き方（提出物②）
6	11.12	5/25	5/28	5/25	筆記試験対策 模擬面接①	小テスト（6）／解答・解説 グループ面接（入室～自己紹介～退室）
7	13.14	6/1	6/4	6/1	筆記試験対策 模擬面接②	小テスト（7）／解答・解説 グループ面接（入室～自己紹介・志望理由～退室）
8	15.16	6/8	6/11	6/8	筆記試験対策 模擬面接③	小テスト（8）／解答・解説 グループ面接（入室～自己紹介・志望理由～退室）
9	17.18	6/15	6/17	6/15	筆記試験対策 模擬面接④（個人）	個人面接練習（入室～質疑応答～退室） * PDCAシート2回目提出メ切り（提出物③）
10	19.20	6/22	6/29	6/22	まとめ 定期試験	前期授業を振り返り、働くことに対する意識を再確認する 前期授業の中から出題（選択問題・記述問題ともあり）
11	21.22	6/29	7/21	6/29	人が働く目的（土屋）	人は「なぜ働くのか」について考え、意見交換をする
12	23.24	7/6	8/27	7/6	飲食業界と自分を分析する（土屋）	飲食業界の展望 長所、短所について
13	25.26	7/13	9/3	7/16	夢や生き方について、モデルを紹介しながら感じ学ぶ（土屋）	「夢」「生き方」について考え、意見交換をする
14	27.28	7/21	9/7	8/24	業界の求める人材、社会でのモラル・ルールなどを学ぶ①（土屋）	諸先輩方からの生き方から、社会で活躍するヒントを考える
15	29.30	8/24	9/11	8/31	業界の求める人材、社会でのモラル・ルールなどを学ぶ②（土屋）	まとめ
成績評価基準		授業態度・提出物 40% 確認テスト 60%				
教科書 参考書 教材		就活必携・労働法（東京都産業労働局発行） 講師作成プリント・就職活動ガイドブック（香川調理製菓専門学校編）・関連する映像など				

授 業 科 目 名		授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名	
レストランオペレーション		1単位 (30時間)	前期	必修	奥 山 敦	
授業の目的						
レストランは、一生忘れることのない人生の思い出を残す「メモリアル産業」です。 「お客様満足」を実践するための基礎知識を学び、理解を深め、知識とスキルの習得を目指します。						
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）						
回	時間数	月 日			項 目	概 要
		A	B	C		
1	1.2	4/10			オリエンテーション	授業の目的と内容、進め方 評価基準説明
2	3.4	4/24			レストラン・接客の基本①	レストラン（飲食・サービス業）の特徴を理解する レストランサービス技能士とは
3	5.6	5/1			レストラン・接客の基本②	接客心理を理解し、接客術を身に付ける
4	7.8	5/8			テーブルマナーと歴史	レストランにおけるテーブルマナーとその歴史を知る 小試験①
5	9.10	5/15			ワインの知識①	ワインの基礎を学ぶ 醸造酒、蒸留酒の違いとフランスワインを知る
6	11.12	5/22			ワインの知識②	色・香り・味のテイスティング（感性を高める） レストランにおけるワインの管理と保存方法
7	13.14	5/29			飲料の知識	その他飲料の知識（スピリッツ、カクテル、混成酒、水、お茶） について学ぶ 小試験②
8	15.16	6/5			デクパージュとフランパージュ実技	ゲリドン・サービスの演出効果を知る サービスコンクール DVD 視聴
9	17.18	6/12			宴会の基本	宴会の種類と特徴を理解する プロトコールとは
10	19.20	6/19			宴会サービス	宴会の心得を学ぶ 立食パーティのマナー
11	21.22	6/26			結婚式・披露宴の基礎	結婚式と披露宴の特徴を知る (冠婚葬祭、晴れと褻、招待状のマナーほか) 小試験③
12	23.24	7/3			調理部門とのコミュニケーション	フランス料理の変遷 食文化と宗教による食の禁忌
13	25.26	7/10			苦情と不満	クレームとコンプレインの違い 苦情対応の基本と顧客に変えるマジックフレーズ
14	27.28	7/17			マーケティングの業務	売れるしぐみを学ぶ (市場調査と分析、企画、宣伝、セールス、顧客管理) 小試験④
15	29.30	8/28			期末テスト まとめ	期末テストと解説
成績評価基準		小試験 4回 40% 期末テスト 50% 授業態度 10%				
教科書 参考書 教 材		自作プリントを配付する 西洋料理料飲接客サービス技法（一般財団法人）職業訓練教材研究会 基礎からわかるレストランサービス スタンダードマニュアル（一般財団法人）職業訓練教材研究会				

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
インターンシップ（校外実習）					2単位 (60時間)	通年	選択必修	土 屋 純 一 他
授業の目的								
調理師業務の実際を実地経験することにより、調理師としての職業意識を向上させ、あわせて営業調理の技術及び多様化した調理業務に応え得る知識及び技術を学習することにより、就職について真剣に考えることができる。								
授業計画（集中）（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1~6	指定する 10 日間	校外営業店における実習		ホテル・レストラン・料亭・飯店等、校外営業施設での調理実習を集中して実施する。 ※実習前にオリエンテーションを行う。 ※実習レポート提出、報告会を行う。			
2	7~12							
3	13~18							
4	19~24							
5	25~30							
6	31~36							
7	37~42							
8	43~48							
9	49~54							
10	55~60							
					・インターンシップ（校外実習）に入るための腸内細菌検査（検便）について インターンシップ（校外実習）に入るためには、決められた容器で腸内細菌検査を行い細菌の有無の検査を済まさなければならない。そのためにはインターンシップ（校外実習）に入る前の指定日の朝に採取した便を提出すること。なお、検査を受けなければ指定された日にインターンシップ（校外実習）に入ることができない。			
成績評価基準		企業からの評価 50%、実習レポート 50%						
教科書 参考書 教材								

授 業 科 目 名					授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名
フードランゲージ（フランス語）					1 単位 (30時間)	後期	選択必修	黒 田 阿佐子
授業の目的								
レストランやパティスリーのメニューやレシピ（ルセット）など、料理に欠かせないフランス語が理解できるよう、基本的な文法と語彙を修得する。フランス語を通じてフランスの食を中心とした文化に関する理解を深める。								
授業計画（授業計画は変更になる場合があります）								
回	時間数	月 日			項 目	概 要		
		A	B	C				
1	1.2	10/5	10/5	10/5	導入	あいさつ、フランス語で自己紹介		
2	3.4	10/19	10/19	10/19	名詞と形容詞	名詞の性・数、形容詞の性・数、名詞と形容詞の性・数一致		
3	5.6	10/26	10/26	10/26	動詞	過去分詞の形容詞的用法、数字		
4	7.8	11/9	11/9	10/26	「de」を使った表現	「de」を使った表現、序数と分数		
5	9.10	11/16	11/9	11/9	「au」や「à la」を使った表現	「à」＋「定冠詞」の表現、カフェでの会話		
6	11.12	11/16	11/16	11/16	複合的表現、伝統的表現	メニューの構成、レストランでの会話		
7	13.14	11/30	11/30	11/30	ルセットの読み方、食文化[1]	材料と分量、ブルターニュ地方		
8	15.16	12/7	12/7	11/30	ルセットの読み方、食文化[2]	基本の構文、アキテーヌ地方		
9	17.18	12/14	12/7	12/7	ルセットの読み方、食文化[3]	ジェロンディフ、代名詞、プロヴァンス地方		
10	19.20	12/14	12/14	12/14	ルセットの読み方、食文化[4]	前置詞、キリスト教の行事と食文化		
11	21.22	12/21	12/21	12/21	ルセットの読み方、食文化[5]	否定文、副詞、ローヌアルプ地方		
12	23.24	1/18	1/18	12/21	ルセットの読み方、食文化[6]	命令形、アルザス・ロレーヌ地方		
13	25.26	1/25	1/18	1/18	食文化[7]	フランスのワイン・チーズ・パン、店舗での会話		
14	27.28	1/25	1/25	1/25	食文化[8]	映画鑑賞		
15	29.30	2/1	2/1	2/1	定期試験			
成績評価基準		定期試験 80%、授業態度 10%、提出物 5%、出席率 5%						
教科書 参考書 教 材		授業中に配布するプリント						

授 業 科 目 名		授業時間	開講時期	必修・選択	担当者氏名	
フードランゲージ (英語)		1 単位 (30時間)	前期	選択必修	三谷有里・藤谷ジェンマ	
授業の目的						
接客における会話や料理のレシピに関わる語彙を修得し、実社会で役立つ語学力を涵養する。 This Vocational English Course is designed to help students communicate effectively with customers in a restaurant setting, acquire basic recipe vocabulary, and build confidence in real-life situations.						
授業計画 (授業計画は変更になる場合があります)						
回	時間数	月 日			項 目	概 要
		A	B	C		
1	1.2	4/9	4/13	4/13	Orientation	到達目標までのロードマップ Roadmap to your goals
2	3.4	4/16	4/20	4/20	Vocabulary	食材: Ingredients 味と食感 Flavor and Texture
3	5.6	4/23	4/27	4/27	Telephone Conversation	電話を受ける Answering phone calls
4	7.8	4/30	5/11	5/11	Restaurant Conversation ①	注文を受ける Taking an order
5	9.10	5/7	5/18	5/18	Restaurant Conversation ②	メニューを説明 Describing the menu
6	11.12	5/14	5/25	5/25	Restaurant Conversation ③	顧客対応 Serving customers
7	13.14	5/21	6/1	6/1	Restaurant Conversation ④	支払い Payment
8	15.16	5/28	6/8	6/8	Restaurant Conversation ⑤	苦情対応 Dealing with complaints
9	17.18	6/4	6/15	6/15	Nutrients	栄養成分表示と食物アレルギー Nutrition Facts and Food allergies
10	19.20	6/11	6/22	6/22	Recipe ①	調理法 Cooking methods
11	21.22	6/18	6/29	6/29	Recipe ②	レシピを日本語から英語に翻訳 Translating recipes from Japanese into English
12	23.24	7/2	7/6	7/6	Recipe ③	看板料理の極意 Cooking tips for signature dishes
13	25.26	7/9	7/13	7/13	Group Presentation ④	グループでレシピを発表 Giving a presentation about your recipe
14	27.28	7/16	8/24	8/24	Review	総復習 Comprehensive Review
15	29.30	8/27	8/31	8/31	Final Exam	最終試験
成績評価基準		出席率 30% 授業参加度 (課題提出、プレゼン) 40% 試験 30% Attendance: 30% Class Participation including assignments and a presentation: 40% Exam: 30%				
教科書 参考書 教材		配布資料 handouts / worksheets YouTube				